

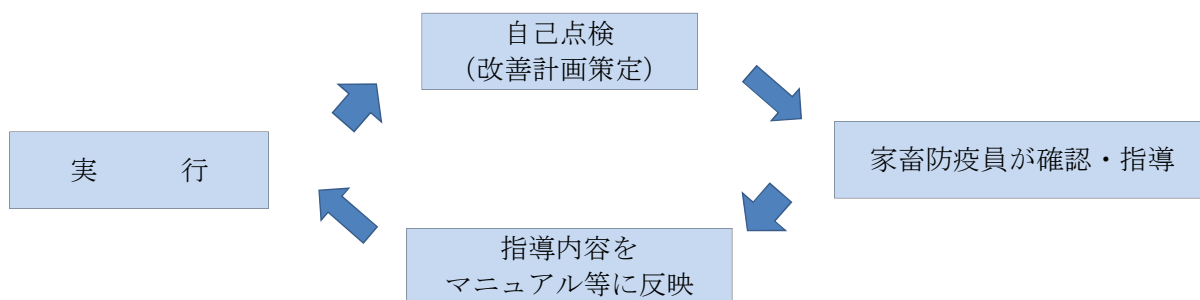
2. 飼養衛生管理基準の遵守状況及び遵守するための措置の実施状況 (3) 鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥の場合

※記載方法

- ・自らの農場に関する飼養衛生管理基準の遵守状況及び遵守するための措置の実施状況について、自己点検を行うこと。
- ・1から35までの各項目の設問に対し、自己点検の結果を元に「はい」、「いいえ」又は「該当しない」に丸を付けること。
- ・「記入欄」がある設問には、措置の状況を記載又は該当する事項に丸を付けること。
- ・「いいえ」と回答した項目については、記入欄に今後の改善方針を記載すること。

【 提出後の流れ ～改善に向けて～ 】

- ①家畜防疫員は、立入検査等により飼養衛生管理の状況を再確認し、家畜防疫員チェックボックスに「○」、「×」又は「-」（非該当）を記入する。
- ②改善が必要な項目については、家畜防疫員記入欄に改善指導の内容を記入し、家畜の所有者に提供する。
- ③改善指導があった場合、家畜の所有者は指導内容を飼養衛生管理マニュアルに反映させ、実行する。



●飼養衛生管理基準の構成について

飼養衛生管理基準は全35項目あり、各項目を取組の目的ごとに以下のⅠ～Ⅳに体系化しながら、分類している。

- Ⅰ 家畜防疫に関する基本的事項【項目1～10】
- Ⅱ 衛生管理区域への病原体の侵入防止【項目11～19】
- Ⅲ 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止【項目20～29】
- Ⅳ 衛生管理区域外への病原体の拡散防止【項目30～35】

【参考】農場の各施設において関係する項目とその項目が防除の対象とする感染源（一覧表）

感染源		対策の実施場所（衛生管理区域内）				
分類	種類（代表例）	境界		敷地	関連施設	家きん舎
		入域時	出域時			
人	従業者、外部者	11 12 13 14	30			20 21
物品	車両、重機	15	31			23
	器具、機材	16 17	32 34	27	22	22 23
	飼料、敷料	18				18
野生動物	ねずみ、たぬき			27	24 25 26	24 25 26
	野鳥				24 25	24 25
	はえ、ダニ				24 26	24 26
飼養環境	土壌、粉塵			27	28	28
家きん	死体、排せつ物		33 34		24	24
	鶏その他家きん	19	33 34 35			29 34 35

I 家畜防疫に関する基本事項			
1 家きんの所有者の責務			
●関係法令を遵守している。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄 内容を理解している関係法令： ・家畜伝染病予防法 ・飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律 ・獣医師法 ・家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律 ・水質汚濁防止法 ・悪臭防止法 ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ・医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律			
●農場の所在地で飼養されている家きんの所有者その他の畜産関係者と協力して衛生管理の意識を高め、衛生管理を行っている。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（はいの場合） 協力者：地域の他の家きんの所有者（飼養衛生管理者） 市町村 地域自衛防疫団体 その他（ ）			
●（所有者以外に飼養衛生管理者がある場合）飼養衛生管理者と常時連絡可能な体制を確保し、本基準に規定される取組について当該飼養衛生管理者に実施させている。	はい	いいえ	該当しない <input type="checkbox"/>
記入欄（はいの場合） 連絡体制：携帯電話 事務所電話 メール FAX その他（ ）			
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
2 家畜防疫に関する最新情報の把握及び衛生管理の実践			
●家畜保健衛生所等から提供される情報を必ず確認している。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（はいの場合） 情報の把握方法：メール 広報誌 FAX ウェブサイト その他（ ）			
●家畜保健衛生所等が開催する家畜衛生に関する講習会への参加、農林水産省のウェブサイトの閲覧等を通じて、家畜防疫に関する情報を積極的に把握している。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（はいの場合） 情報の把握方法：講習会（ ） ウェブサイト その他（ ）			
●家畜防疫に関する最新情報を踏まえ、防疫体制を含めて、自らの農場の飼養衛生管理の状況を定期的に点検し改善を図っている。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（はいの場合） 点検の頻度：年1回 半年に1回 月1回 週1回 その他（ ）			
●農場の最新の防疫体制を確認できるよう、衛生管理区域及び消毒設備等の衛生対策設備の設置箇所を明示した農場の平面図を作成し、備えている。 （要 資料添付）	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
●家畜保健衛生所が行う検査を受け、指導に従っている。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			

3 飼養衛生管理マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底（令和4年2月施行）			
●必要事項を規定した飼養衛生管理マニュアルを獣医師等の専門家の意見を反映させて、作成している。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合） マニュアルの作成に当たり意見を求めた者：家畜防疫員 担当の獣医師 その他（ ）			
●従事者及び外部事業者が飼養衛生管理マニュアルを遵守するよう、当該マニュアルを印字した冊子の配布、看板の設置その他の必要な措置を講じている。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合） 周知方法：冊子の配布 看板の設置 その他（ ）			
●家さんの伝染性疾病の発生の予防及びまん延の防止に関する情報を従事者及び外部事業者へ周知徹底している。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合） 周知方法：飼養衛生管理マニュアル メール 電話 印刷物 口頭周知 その他（ ）			
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
4 記録の作成及び保管			
以下に掲げる事項に関する記録を作成し、少なくとも1年間保存している。			
●衛生管理区域に立ち入った者（※1）の氏名及び住所又は所属、衛生管理区域への立入りの年月日、その目的（※2）及び消毒の実施の有無（車両を入れる者にとっては、当該車両の消毒の有無を含む。）	はい	いいえ	
不特定かつ多数の者が立ち入ることが想定される施設（観光牧場等）において、衛生管理区域の出入口における手指及び靴の消毒等、病原体の持込み及び持出しを防止するための規則をあらかじめ作成し、家畜防疫員が適切なものであることを確認した場合は記録は不要である。※1当該農場の従事者を除く。 ※2所属等からその目的が明らかな場合を除く。			
●消毒の実施の記録については、衛生管理区域の出入口等に台帳を設置し、確実に記録させている。	はい	いいえ	
●（衛生管理区域に立ち入った者が過去一週間以内に海外から入国、又は帰国した場合）過去一週間以内に滞在した全ての国又は地域の名称及び当該国又は地域における畜産関係施設等への立入りの有無	はい	いいえ	該当しない
●（従事者が海外に渡航した場合）滞在期間及び国又は地域の名称	はい	いいえ	該当しない
●導入した家さんの種類、羽数、健康状態、導入元の農場等の名称及び導入の年月日	はい	いいえ	該当しない
●出荷又は移動を行った家さんの種類、羽数、健康状態、出荷又は移動先の農場等の名称及び出荷又は移動の年月日	はい	いいえ	該当しない
●飼養する家さんの羽数、日齢、異状の有無、異状がある場合にあつては、その症状並びに獣医師による診療結果及び投薬その他の処置の状況	はい	いいえ	
●家畜保健衛生所、担当獣医師等からの農場指導の内容及び指導年月日	はい	いいえ	
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			

5 通報ルールの作成等（大規模所有者のみ）			
飼養する家きんが特定症状を呈していることを従業員が発見したとき、当該家きんの所有者及び飼養衛生管理者の許可を得ず、直ちに家畜保健衛生所に通報することを規定したものを作成し、これを全従業員に周知徹底している。（要 資料添付）	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（はいの場合） 周知方法：飼養衛生管理マニュアル 貼紙 その他（ ）			
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
6 獣医師等の健康管理指導			
●家畜保健衛生所と緊密に連絡を行っている担当の獣医師又は診療施設を定め、定期的に当該獣医師又は診療施設から飼養する家きんの健康管理について指導を受けている。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（はいの場合） 担当の獣医師の氏名及び所属又は担当の診療施設の名称： 指導（立入）頻度：年1回 半年に1回 月1回 週1回 その他（ ）			
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
7 衛生管理区域の設定			
●農場に病原体の侵入及びまん延の防止を重点的に行う区域として衛生管理区域を設定し、衛生管理区域とそれ以外の区域とに分け、両区域の場所が明確に分かるようにしている。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（はいの場合） 衛生管理区域境界の明確化方法： 消石灰帯（幅 m） 柵 ロープ 三角コーン 垣根（プランター） その他（ ）			
●衛生管理区域は、家きん舎、家きんに直接接触する物品の保管場所並びに家きんに直接触れた者が消毒並びに衣服及び靴の交換を行わずに行動する範囲の全てを網羅している。 ※家きん舎の他に、飼料給与、清掃、家きんの出荷及び死亡家きんの管理等の一連の作業に関連する農場内の敷地の全てを衛生管理区域とすること。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
●出入口の数を必要最小限とし、家きん、資材、死体等の持込み又は持出し場所を可能な限り衛生管理区域の境界に位置するよう設定している。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
8 埋却等の準備			
●死体の処理に必要な埋却地の確保をしている、又は焼却若しくは化製のための準備措置を講じている。（要 資料添付）	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			

14 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用			
●衛生管理区域専用の衣服及び靴を設置し、立ち入る者に対し、これらを着実に着用させている。 ※立ち入る者が当該衛生管理区域専用の衣服及び靴を持参し、当該衣服及び靴を着用する場合を除く。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合） 従業員用：専用作業着 防護服 専用靴 ブーツカバー その他（ ） 来場者用：専用作業着 防護服 専用靴 ブーツカバー その他（ ）			
●更衣による衛生管理区域への病原体の侵入を防ぐため、着脱前後の衣服及び靴をすのこ、分離板等で場所を離して保管している。さらに、更衣前後において利用する経路が交差しないよう一方通行とするなど必要な措置を講じている。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合） 保管方法：屋内 屋外（専用保管箱） 屋外（ブルーシート等で被覆） その他（ ） 更衣による交差汚染を防止する措置の内容：			
●衣服及び靴に排せつ物、汚泥等が付着した場合には、洗浄及び消毒を行っている。	はい	いいえ	
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
15 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等			
●衛生管理区域の入口付近に消毒設備を設置し、車両の消毒をさせている。 ※立ち入る者が消毒機器を携行し、当該機器を使用して消毒している場合を除く。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合） 消毒設備：ゲート式車両消毒装置 プール式車両消毒装置 動力噴霧器 蓄圧式噴霧器 消石灰帯（幅 m） その他（ ）			
●衛生管理区域に車両を入れる者に対し、当該農場専用のフロアマットの使用その他の方法により、車内における交差汚染を防止するための措置を講じている。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合） 措置の内容：農場専用のフロアマットの設置 降車時にブーツカバーを使用 その他（ ）			
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
16 他の畜産関係施設等で使用した物品を衛生管理区域に持ち込む際の措置			
●他の畜産関係施設等で使用し、又は使用したおそれがある物品は、原則、衛生管理区域内に持ち込んでいない。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講じている。	はい	いいえ	該当しない
記入欄（はいの場合） 飼養衛生管理マニュアルへの記載の有無：あり なし 持ち込みした回数： 回			
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			

17 海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置				
●過去二月以内に海外で使用した衣服及び靴を衛生管理区域に持ち込んでいない。やむを得ず持ち込む場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講じている。	はい	いいえ	該当しない	
記入欄（はいの場合） 飼養衛生管理マニュアルへの記載の有無：あり なし 持ち込みした回数： 回				
記入欄（今後の改善方針）				
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）				
18 飲用水の給与				
飼養する家さんには飲用に適した水を給与することとし、適さない水を給与する場合には、消毒して給与している。	はい	いいえ	該当しない	
記入欄 使用している飲用水： 水道水 井戸水（異物混入：なし あり） 湧水（異物混入：なし あり） その他（ ） 水質検査：実施していない 実施している（年 回） 飲水消毒：実施していない 実施している				
記入欄（今後の改善方針）				
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）				
19 家さんを導入する際の健康観察等				
●他の農場等から家さんを導入する場合には、導入元の農場等における家さんの伝染性疾患の発生状況、導入する家さんの健康状態の確認等を行い、健康な家さんを導入している。	はい	いいえ	該当しない	
●導入した家さんに家さんの伝染性疾患にかかっている可能性のある異状がないことを確認するまでの間、他の家さんと直接接触させないようにしている。	はい	いいえ	該当しない	
記入欄（はいの場合） 隔離方法：隔離ケージ オールアウト後の家さん舎 その他（ ）				
記入欄（今後の改善方針）				
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）				
III 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止				
20 家さん舎に立ち入る者の手指消毒等				
●家さん舎の入口付近に消毒設備を設置し、立ち入る者に対し、家さん舎に出入りする際に手指の洗浄及び消毒をさせている。	はい	いいえ		
記入欄（はいの場合） 消毒設備：設置されたスプレー 畜舎専用の手袋の着用 その他（ ）				
記入欄（今後の改善方針）				
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）				

24 野生動物の侵入防止のためのネット等の設置、点検及び修繕（令和3年10月施行）

●野鳥等の野生動物の家きん舎、飼料保管庫、堆肥舎、死体保管庫等への侵入を防止することができる防鳥ネットその他の設備を設置している。

はい いいえ

記入欄

■家きん舎内への侵入防止対策

なし ウィンドレス（隙間：なし あり（対策： ） ）
 壁または窓（破損：なし あり（対策： ） ）
 ネット（網目： cm、破損：なし あり（対策： ） ）
 金網（網目： cm、破損：なし あり（対策： ） ）
 消石灰帯（設置：なし あり（幅 m）） その他（ ）

■排せつ物保管場所の対策

(1) 排せつ物処理方法：堆積 コンポスト 共同処理施設への搬出 その他（ ）

(2) 野生動物の侵入防止対策

なし 屋内保管（隙間：なし あり（対策： ） ）
 ネット（網目： cm、破損：なし あり（対策： ） ）
 ブルーシート その他（ ）

■飼料の保管場所の対策

なし 屋内保管（隙間：なし あり（対策： ） ）

■資材の保管場所の対策

なし 屋内保管（隙間：なし あり（対策： ） ）
 蓋付容器 ネット（網目： cm、破損：なし あり（対策： ） ）
 ブルーシート その他（ ）

■死体の保管場所の対策

●死体の処理 焼却処理 その他（ ）

●死体の保管

なし 屋内保管（隙間：なし あり（対策： ） ） コンテナ 蓋付容器
 ネット（網目： cm、破損なし あり（対策： ） ）
 ブルーシート その他（ ）

■その他（必要に応じて記載）

施設の種類：
 具体的な侵入防止対策：

●定期的に当該設備の破損状況を確認し、破損がある場合には、遅滞なくその破損箇所を修繕している

はい いいえ

記入欄（今後の改善方針）

家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）

25 給餌設備、給水設備等への野生動物の排せつ物等の混入の防止

●家きん舎の給餌設備及び給水設備並びに飼料の保管場所にねずみ、野鳥等の野生動物の排せつ物等が混入しないよう必要な措置を講じている。

はい いいえ

記入欄（今後の改善方針）

家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）

26 ねずみ及び害虫の駆除			
●ねずみ及びはえ等の害虫の駆除を行うために殺そ剤及び殺虫剤の散布、粘着シートの設置その他の必要な措置を講じている。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（はいの場合） ねずみの駆除対策：殺鼠剤 粘着シート その他（ ） 害虫の駆除対策：殺虫剤 粘着シート アブトラップ その他（ ）			
●家きん舎の屋根又は壁面に破損がある場合には、遅滞なくその破損個所を修繕している。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
27 衛生管理区域内の整理整頓及び消毒			
●衛生管理区域内は、ねずみ等の野生動物の隠れられる場所をなくしている。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
●病原体が残存しないよう不要な資材等の処分、除草等を行うとともに、資材、機材等を整理整頓し、敷地を定期的に消毒している。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄 雑草等の除草の頻度：年1回 半年に1回 月1回 週1回 その他（ ） 整理整頓されていない資材等の有無：あり なし			
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
28 家きん舎等施設の清掃及び消毒			
●家きん舎その他の衛生管理区域内にある施設を飼養衛生管理マニュアルに基づき定期的に清掃及び消毒している。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
29 毎日の健康観察			
●毎日、飼養する家きんの健康観察（ふ化及び死亡の状況並びに異状の有無を含む。）を行っている。	はい	いいえ	<input type="checkbox"/>
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			

IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止			
30 衛生管理区域から退出する者の手指消毒等			
●衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し手指の洗浄及び消毒をさせている。 ※立ち入る者が消毒機器を携行し、消毒している場合を除く。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合）※項目13 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等と同じ場合、記載不要 消毒設備：設置されたスプレー その他（ ） 記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
31 衛生管理区域から退出する車両の消毒			
●衛生管理区域の出口付近に消毒設備を設置し、退出する者に対し手指の洗浄及び消毒をさせている。 ※退出する者が消毒機器を携行し、消毒している場合を除く。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合）※項目15 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等と同じ場合、記載不要 設置状況：ゲート式車両消毒装置 プール式車両消毒装置 動力噴霧器 蓄圧式噴霧器 消石灰帯（幅 m） その他（ ） 記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
32 衛生管理区域から搬出する物品の消毒等			
●家きんの排せつ物等の付着した又は付着したおそれのある物品を衛生管理区域から持ち出す場合には、洗浄、消毒その他の必要な措置を講じている。	はい	いいえ	該当しない
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
33 家きんの出荷又は移動時の健康観察			
●家きんを出荷等により農場外へ移動させる場合には、移動の直前に当該家きんの健康状態を確認している。	はい	いいえ	
●家きんの死体又は排せつ物を移動させる場合には、漏出が生じないようにしている。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合） 漏出防止方法（死体）：屋根付きトラック 蓋付き容器 ブルーシート その他（ ） 漏出防止方法（排せつ物）：蓋付き容器 ブルーシート その他（ ） 記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			

34 特定症状が確認された場合の早期通報並びに出荷及び移動の停止			
●特定症状を呈していることを発見したときは、直ちに家畜保健衛生所に通報することとしている。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合） 従業員がいる場合の周知方法：飼養衛生管理マニュアル 貼紙 口頭周知 その他（ ）			
●農場からの家きん及びその死体、畜産物並びに排せつ物の出荷及び移動を行わないこととしている。	はい	いいえ	
●衛生管理区域内にある物品を衛生管理区域外に持ち出さないこととしている。	はい	いいえ	
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			
35 特定症状以外の異状が確認された場合の出荷及び移動の停止			
●特定症状以外の異状であって、家きんの死亡率の急激な上昇又は同様の症状を呈している家きんの増加が確認された場合には、直ちに獣医師の診療若しくは指導又は家畜保健衛生所の指導を受けている。	はい	いいえ	
●（獣医師の診療若しくは指導又は家畜保健衛生所の指導があった場合）当該家きんが監視伝染病にかかっていないことが確認されるまでの間、農場からの家きんの出荷及び移動を行わないこととしている。	はい	いいえ	
●（当該家きんが監視伝染病にかかっていることが確認された場合）家畜保健衛生所の指導に従うこととしている。	はい	いいえ	
●（飼養する家きんにその他の特定症状以外の異状が確認された場合）速やかに獣医師の診療を受け、又は指導を求めている。	はい	いいえ	
記入欄（はいの場合） 従業員がいる場合の周知方法：飼養衛生管理マニュアル 貼紙 口頭周知 その他（ ）			
記入欄（今後の改善方針）			
家畜防疫員記入欄（改善指導の内容、指導年月日）			

※ 特定症状（対象とする家畜伝染病：高病原性鳥インフルエンザ又は低病原性鳥インフルエンザ）
 ①同一の家きん舎内において、一日の家きんの死亡率が対象期間（当日から遡って21日間）における平均の家きんの死亡率の二倍以上となること。ただし、家きんの飼養管理のための設備の故障、気温の急激な変化、火災、風水害その他の非常災害等高病原性鳥インフルエンザ以外の事情によるものであることが明らかな場合は、この限りでない。
 ②家きんに対して動物用生物学的製剤を使用した場合において、当該家きんにA型インフルエンザウイルスの抗原又はA型インフルエンザウイルスに対する抗体が確認されること。